



時 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 125 号

平成28年 6月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／伊沢 信恭 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

理事長就任にあたって

理事長挨拶



栃幼連理事長 石嶋 勇

平成二十八年五月十九日の栃幼連五月通常総会に於いて理事長に選任され、三期目のスタートを切らせて頂きました。

今までの四年間多くの先生方のご指導とご援助を賜り、お蔭様で大過なく責任を全うすることが出来ました。ありがとうございます。

平成二十七年四月一日から子ども・子育て支援新制度がスタートしましたが、従来の学校法人立として「私学助成」を受ける幼稚園と「施設型給付」を受ける幼稚園、

新制度の認定こども園「幼保連携型」・「幼稚園型」・「保育所型」等であります。様々な施設の類型があり国が定めた複雑な制度のため新制度へ移行した園は、不慣れな事務処理等に追われておりますが県・市・町の行政担当者の指導を賜りながら諸問題解決に向けて取り組んでいます。そんな現場の状況ですが、平成二十八年四月一日付（県内）の類型別数は私学助成を受ける園（八十九園）施設型給付を受ける園（九十三園）であります。わずかではあります、新

制度への移行園が私学助成園を上回りました。今後新制度へ移行園が増加するものと思われます。しかし私たちは「すべての子ども」の最善の利益が実現される社会を目指す「そんな思いを抱き大きな変革期を乗り越えて幼児教育を守らなければなりません」。

全会員一丸となつて頑張りましょう。

さて、本年は七月の真夏の参議院選挙があります。まさに熱い選挙戦が繰り広げられるのではないのでしょうか。

続いて十一月には栃木県知事選挙もあり、私たち県民にとってどちらも大切な選挙であります。今回の参議院選より新たに十八歳から投票出来ることとなります。棄権せずに投票することを願っています。

また私たち私学にとつて欠かすことの出来ないのが振興活動であり、その活動の効果を最大限発揮するためにも栃幼振興連盟が推薦する候補者の当選は必須であります。

会員の皆様のなお一層のご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成二十八年四月十四日二十一時二十六分と四月十六日（未明）に発生した震度七の地震により熊本大分県に未曾有の被害をもたら

しました。これにより被災された多くの方々に心からのお悔やみとお見舞い申し上げますと共に一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。（会員の皆様の温かいご支援をお願い致します）

平成二十八年度を迎えて

こども政策課長 阿久澤 真理



本年四月にこども政策課長に就任いたしました阿久澤真理です。どうぞよろしく願いいたします。

一般社団法人栃木県幼稚園連合会及び会員の皆様には、本県の幼児教育・保育の振興や充実のため、格別の御尽力と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、我が国は、核家族化や未婚化、晩婚化が進み、合計特殊出生率の低下傾向は深刻化し、本格的な人口減少時代を迎えています。こうした社会の大きな変化に対応し、豊かさを実感できる社会を実現するためには、未来を担う子どもたちを社会全体で守り、育



てていくことが重要です。中でも、幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を築く時期であり、幼稚園・認定こども園に対する県民からの期待は大きなものがございます。また、女性の活躍等を促進するため、地域の実情に応じた子育て支援の充実もより一層求められています。

こうした中、昨年四月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートしましたが、新制度の開始に伴い様々な混乱が生じ、各市町や幼児教育・保育の現場の皆様におかれましては、多大なる御苦労があったものと聞いております。新制度にはまだ多くの課題があるものと認識しておりますが、引き続きこれらの課題にしっかりと対応し、2年目を迎えた「子ども・子育て支援新制度」が円滑に運用されるよう、今後とも市町等と連携して、的確に対応して参ります。

さらに、引き続き「とちぎ子ども・子育て支援プラン」を着実に推進することにより、次代を担う子どもたちが健やかに生まれ、育ち、豊かな人生を送ることができるよう「結婚・妊娠・出産・子育てを切れ目なく支える環境づくり」に向けて、子ども・子育て支援に関する各種施策に取り組んで

参ります。

子どもたちがすくすくと育つことは、保護者の方々をはじめ、子ども・子育てに携わる全ての人々の共通の願いです。次世代を担う子どもたちが園内に元気な声を響かせ、心豊かに成長できるよう、栃木県幼稚園連合会や幼稚園・認定こども園の皆様の更なる御理解と御協力をお願いいたします。

平成28年度 定時総会



平成二十八年五月十九日（木）十五時より、ご来賓に、栃木県議会 議長五月女裕久彦様、栃木県保健福祉部こども政策課 子ども・子育て支援班長横田公宏様、栃木県幼児教育センター センター長森田浩子様のご臨席を賜り、宇都宮コンセーレにおいて定時総会が開催された。船田副理事長が開会を宣言した後、石嶋理事長より挨拶を賜った。挨拶では、認定こども園・私学助成幼稚園の現状と九州熊本震災に触れ、被災されました皆さまに心よりお見舞い申し上げると共に、

参ります。子どもたちがすくすくと育つことは、保護者の方々をはじめ、子ども・子育てに携わる全ての人々の共通の願いです。次世代を担う子どもたちが園内に元気な声を響かせ、心豊かに成長できるよう、栃木県幼稚園連合会や幼稚園・認定こども園の皆様の更なる御理解と御協力をお願いいたします。



義援金協力のお礼を述べたことが印象的であった。

続いて、ご来賓である栃木県議会議長の五月女裕久彦様から挨拶を賜った。挨拶の中では幼稚園や認定こども園に期待される役割が更に大きくなっていくだろうと述べた。



議案では議長に栃木地区より認定こども園バンビ幼稚園理事長小笠原義仁先生を選出し平成二十七年庶事業報告を石嶋理事長、各委員会委員長より報告された。



審議事項では第一号議案に平成二十八年度、収支決算書書類及び付属明細書の承認について。第二号議案には役員の改選について審議されたが満場一致にて、可決承認され、全ての議事を滞りなく終了し、中川副理事長の閉会のことばで定時総会を閉会した。

【資格審査】

出席園 一〇一園
委任状出席園 七十八園

【議事録署名人】

認定こども園友愛幼稚園

前田 和子先生
認定こども園黒羽幼稚園
栗田 英子先生

副理事長挨拶

栃幼連副理事長 石川 均



制度と世代交代の過渡期を迎え、難しい時期であるからこそ悩み抜き

ながらも副理事長の重責を担うことを決断しました。これからの二年間、栃幼連の存在価値が問われる事でしょう。しかし歴史を振り返れば先輩方の英知と行動力により問題を一つ一つ解決し充実した組織を運営してきました。石嶋理事長の行動力と前向きに取り組み姿勢は私たち役員に勇気を与えて下さいます。理事長を支え、幼稚園の振興を図っていくつもりです。栃幼連は各幼稚園の設置者や園長先生の協力なくしては大きな力にはなり得ません。そして大きな力は必ず果実を与えてくれます。

是非、現状を把握し、大同団結して栃幼連と一緒に盛り上げましょう。



栃幼連副理事長 中川 祐慈



この度の五月定時総会におきまして、再任のご承認をいただきました。

石川均副理事長、船田弘和副理事長の両先生と共に石嶋勇理理事長を全力で支えていく所存であります。どうかよろしくご指導をお願いいたします。

新制度が施行され一年が経過いたしました。県幼連加盟園におきまして今年度はすでに新制度移行園が私学助成園を上回り、来年度につきましてはその比率は6対4になろうとしています。今後、ますます移行園が増加することが予想され、それぞれが目指す方向性が多様化してまいります。連合会が一枚岩で臨んでいくことに変わりはありません。

加盟園に対する速やかな情報伝達や解析、多様な選択に対するサポートや行政機関との協議や連携、また、家庭や社会に対しての組織としての対応やアピールなど重要な対応が山積しています。

今後、各委員会は勿論のこと、各地区会や各市町での対応がさらに重要になることに鑑み、緊密に連携し臨んでいく所存です。何卒ご協力をお願い申し上げます。

栃幼連副理事長 船田 弘和



突然の副理事長としての推挙から二期四年の間、石嶋勇理理事長を石川均副理事長、中川祐慈副理事長とともに支えてまいりました。

四年間を顧みれば、新制度がスタートし、幼稚園・認定こども園を取り巻く環境の変化は著しいものがあり今も変革の途上にあります。

石嶋勇理理事長が、浮彫になった制度の課題に対して迅速かつ的確に対応されておられるお姿は印象的で、私がどこまでお役に立てたかと今はただ反省しております。

今回再任を受け三期目となりました。当初はこんなにも長く副理事長を務めるとは思ってもいませんでした。今期は今までの反省を生かし精進してまいります。

● 栃木の幼児教育力の向上を担う教育研究委員会（小倉委員長）

● 栃幼連の半数が移行し、新制度や施設運営上の課題など重要な役割を担う認定こども園委員会（中山委員長）

● あらゆる組織の活性化に不可欠な若手の活動と育成の場である青年部委員会（上野委員長）

再任された三人の委員長を中心に選任された理事・専門委員の皆様と意見を重ね活動内容を深めてまいります。皆様のご協力よろしく、お願い申し上げます。

各委員長挨拶

総務委員長 平野 章雄



引き続き委員長を仰せつかり、微力ながら任に当たりたいと思います。

います。今年度、栃幼連加盟園中新制度移行園が私学助成園を僅かに上回り、来年度は6対4の比率になろうとしています。各園の運営形態が違っても、従来通り同じ仲間として手を携えていく組織であることについては既に、会員のコンセンサスを得ている所です。で、先ずは、会費の見直し・諸規定の見直し等により、組織基盤の確立を図ることが当面の目標となります。また、年々厳しくなっている幼稚園教諭・保育士等の人材確保に向けての対策も当委員会の大きな活動事業となります。当委員会としては、各委員会・事務局との連携を密にして会務の円滑な執行を目指し、幼稚園・教職員・園児・連合会・家庭の力をより一層高めるために最善の努力を発揮していきたいと考えておりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

振興委員長 馬場 章信



新制度が施行されて一年。制度設計上の矛盾、他県との格差、市町間

格差、私学助成・施設型給付格差等々の課題が顕在化しています。教育・保育力の向上という共通目標に向けて、首長・議員の皆様、県・市町担当部署の皆様と共に、課題解決を図ることが大切です。特に市町の課題解決は地区会の動きが鍵を握ります。会長・振興委員が中心となり、地区会一丸となつての振興活動が展開されることを期待します。これから二年間、栃幼連と地区会が連動して振興活動に取り組めるよう努めてまいります。皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしく願います。

教育研究委員長 小倉 庸寛



引き続き教育研究委員長を仰せつかりました。教育・保育の質が問われている今、教員の質の向上は研修の充実にあるとも言われています。研修の機会だけでなく、内容の質も問われることとなります。心して教育研究大会をはじめ、セオリー、テクニカル、資質向上選抜養成講座、乳幼児研修など企画していきたいと思

います。また、幼稚園教育要領の改訂の情報に注視しながら、研究ができるよう考えていきたいと思ます。山崎英明副委員長をはじめ、教育研究委員と共に尽力していく所存です。皆様のご協力をお願い致します。



経営研究委員長 黒田 光泰



新制度は2年目を迎えますが、事務処理の煩雑さ、制度や補助支給等に未だ未成熟の課題も多く、その中で各園の経営・運営に不明や不安をお持ちのことと思います。所属の各委員は、見識や経験の豊かな先生たちです。で、和合協力して年間五回の研修会等では、今後新制度の中でどのように進むべきかを照らす充実した研修を提供できればと考えていますので、皆様のご協力をお願い致します。

広報委員長 伊沢 信恭



何年か前に、「なぜ富士山は感動するほど美しいのか？」と、ある方に問われた事があります。その問いに対し、私は当時、富士山のゴミ問題が話題になっておりましたので「遠くから観ているから」と、つい答えてしまいました。その方は「富士山は、山すそが感動するほど美しいのだ。」と、私はその方からお習い致しました。つまり、山頂だけが美しいのではなく、

山頂を中心とした山麓まで伸びるそのラインが美しいという事だと思っています。

さて、この度、広報委員長という私にはもったいないお役を頂戴いたしました。初めての役で少々緊張しておりますが、今回のお役を通し、それに相応しい人間に私自身が成長出来よう、そして富士山の山すその様に、出しゃばる事なく、しかしだからと言って引つ込み過ぎない事を心がけながら、県幼連の山すその一部になれますようお役を努めてまいります。

また、副委員長の齋藤先生をはじめ、広報委員を受けて下さった多くの先生方と心を合わせ、より良い栃幼時報を発行して参りたいと考えておりますので、皆さまのご理解とご協力を、何卒宜しくお願い申し上げます。

認定子ども園対策委員長 中山 昌樹



このたび改めて、委員長を拝命いたしました。本委員会では引き続き、「新制度」が必要な社会的背景を見つめつつ、今日の前にいる「すべての子ども」の『最善

の利益』のために、教育・保育、子育て支援のあり方、そして地域や行政との関わり等がどうあるべきかを、皆さんと一緒に模索したいと考えております。これから引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

青年部委員長 上野 和彦



今期は、特に若手の育成に意識を向けていこうと考えています。私たちが

ちは経営者として、教育者として人の上に立つことになる身です。今のうちに学ぶべきことはたくさんあります。互いに、この特殊な委員会の存在意義をしっかりと見つめ合い、コミュニケーションを深め合いながら、共に成長し合える集団を目指したいと考えています。これまで以上のご理解をお願いいたします。

栃木県私立幼稚園振興連盟 平成二十八年度総会

平成二十八年度栃幼連定時総会終了後、栃木県私立幼稚園振興連盟の総会がコンソーレにて開催さ

れた。



石川均振興連盟会長の挨拶の後、議長に小笠原義仁氏（パンビ幼稚園）を選出し、「資格審査」会員数百七十四名中、出席九十名、委任状出席八十三名、「議事録署名人」前田和子氏（友愛幼稚園）、栗田英子氏（黒羽幼稚園）、「記録人選出」河合智美氏（事務局）の手続きを経て議事に入った。

(1)平成二十七年事業報告並びに収支決算の承認について (2)平成二十八年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の承認について (3)自由民主党栃木県私立幼稚園支部平成二十七年収支決算並びに平成二十八年度収支予算（案）の承認についての三議案は、すべて原案通り可決承認された。(4)役員改選については、規約と規約の解釈と運営に関する申し合わせにのっとり、総会資料をもとに発表し、原案通り可決承認された。

終了後開催された幼稚園教育振興懇談会は、二十名の県会議員の先生方にご出席いただき、有意義な懇談となった。



平成28・29年度 栃幼連役員・委員会構成

平成28年5月19日現在

理事長	石 嶋 勇（認定すずめこども園）		
副理事長	石 川 均（認定こども園アルス幼稚園）	中川 祐慈（清滝寺幼稚園）	船田 弘和（認定こども園おおみや幼児教育センター）
	【総務・振興 委員会担当】	【経営研究・広報 委員会担当】	【教育研究・認定こども園・青年部 委員会担当】

●総務委員会

委員長	平野 章雄 （栗の実幼稚園）	専門委員	寺内 宏子 （作新学院幼稚園）
副委員長	大久保信男 （やすづか幼稚園）	〃	落合 久恵 （岡本幼稚園）
委 員	稲川 康代 （平出幼稚園）	〃	小森谷博一 （大平みなみ幼稚園）
〃	細島 洋明（認定こども園真岡ふたば幼稚園いちごの杜保育園）	〃	内木 大輔 （認定こども園第二薬師寺幼稚園）
〃	大塚 真司 （認定こども園東光寺幼稚園）		
〃	佐藤 峻介 （認定こども園いすみ幼稚園）		

●振興委員会

委員長	馬場 章信 （認定こども園たから幼稚園）	専門委員	中臣 正範 （めぐみ幼稚園）
副委員長	富川 将 （認定間々田こども園）	〃	高瀬 恵 （佐野みのり幼稚園）
委 員	金子 礎泰 （聖幼稚園）	〃	市村 弘貴 （認定こども園ふじおか幼稚園）
〃	宮内 常喜 （足利みどり幼稚園）	〃	桑門 秀光 （今市幼稚園）
〃	香川 玲子 （鹿沼ひかり幼稚園）	〃	瀧田 信 （ふたば幼稚園）
〃	齋藤 君世 （高根沢第二幼稚園）		

●教育研究委員会

委員長	小倉 庸寛 （認定こども園愛泉幼稚園）	委 員	斎藤 佳子 （認定こども園しずでら幼稚園）	専門委員	五十嵐市郎 （宇都宮大学教育学部附属幼稚園）	山中真由美 （認定おおやこども園）
副委員長	山崎 英明 （釜井台幼稚園）	〃	安藤 紀子 （聖ヨゼフ幼稚園）	〃	加藤みどり （真岡さくら幼稚園）	上沢 善樹 （鹿沼幼稚園）
委 員	今井 政範 （認定こども園さくらが丘）	〃	岡本 純世 （認定こども園すみれ幼稚園）	〃	桑子 佳子 （矢場川幼稚園）	大嶋 裕 （今市中央幼稚園）
〃	小林 研介 （呑竜幼稚園）	〃	栗田 英子 （認定こども園黒羽幼稚園）	〃	田名網優子 （明星幼稚園）	岡本 純世 （認定こども園すみれ幼稚園）
				〃	大久保智子 （やすづか幼稚園）	栗田 英子 （認定こども園黒羽幼稚園）

●経営研究委員会

委員長	黒田 光泰 （ひかり幼稚園）	専門委員	木嶋香保利 （御幸幼稚園）
副委員長	馬場 伸裕 （陽南幼稚園）	〃	荒木 龍胤 （認定こども園せんだん幼稚園）
委 員	田上富美子 （認定こども園牧が丘幼稚園）	〃	新田 文英 （足利いすみ幼稚園）
〃	遠藤 英昌 （花園幼稚園）	〃	栗原 健治 （国谷幼稚園）
〃	阿部 博美 （今市中央幼稚園）	〃	小野瀬泰弘 （楠エンゼル幼稚園）
		〃	大豆生田光男 （認定とまとこども園）

●認定こども園対策委員会

委員長	中山 昌樹 （認定こども園あかみ幼稚園）	専門委員	永田 文子 （さくら認定こども園さくら幼稚園）
副委員長	佐藤 広志 （認定こども園七井幼稚園）	〃	薄久保尚史 （陽の丘幼稚園）
		〃	荒木由紀子 （認定こども園せんだん幼稚園）
		〃	大塚 倫子 （認定こども園こぼと）
		〃	関口 修司 （認定こども園ひらかわ幼稚園）
		〃	佐藤 司郎 （認定こども園野ばら幼稚園）
		〃	栗田 典昭 （認定こども園黒羽幼稚園）

●広報委員会

委員長	伊沢 信恭 （静林幼稚園）	専門委員	一ノ瀬孝之 （認定こども園足利しらゆり幼稚園）
副委員長	斎藤 達成 （認定あけぼのこども園）	〃	石原 顕彰 （佐野たけなな幼稚園）
委 員	田崎 容子 （認定こども園平出むつみ幼稚園）	〃	石川健太郎 （アルス南幼稚園）
〃	古本 裕一 （やしお幼稚園）	〃	橋本 慎平 （鹿沼みどり幼稚園）
〃	宇南山照元 （認定こども園真岡ひかり幼稚園）	〃	松島 則子 （清滝幼稚園）
		〃	吉水 義浩 （認定こども園鳥山みどり幼稚園）

●ホームページ委員会

委員長	斎藤 達成 （認定あけぼのこども園）	委 員	石川健太郎 （アルス南幼稚園）
委 員	太田 千晴 （中鶴田幼稚園）	〃	伊沢 信恭 （静林幼稚園）
〃	落合 久恵 （岡本幼稚園）	〃	橋本 慎平 （鹿沼みどり幼稚園）
〃	佐藤 健太 （認定こども園七井幼稚園）	〃	大嶋 裕 （今市中央幼稚園）
〃	一ノ瀬孝之 （認定こども園足利しらゆり幼稚園）	〃	石嶋 純 （認定こども園さつれ川幼稚園）
〃	佐野 延洋 （洗心幼稚園認定こども園）	〃	月江正太郎 （虹ヶ丘認定こども園）

●青年部委員会

委員長	上野 和彦 （にのみや認定こども園）	地区幹事	太田 千晴 （中鶴田幼稚園）	佐野 延洋 （洗心幼稚園認定こども園）	内木 大輔 （認定こども園第二薬師寺幼稚園）
副委員長	太田 千晴 （中鶴田幼稚園）	〃	古本 裕一 （やしお幼稚園）	市村 直哉 （認定こども園しずでら幼稚園）	青柳 貴也 （晃望台幼稚園）
〃	内木 大輔 （認定こども園第二薬師寺幼稚園）	〃	川崎 寛章 （真岡杉の子幼稚園）	栗原 賢臣 （国谷幼稚園）	石嶋 純 （認定こども園さつれ川幼稚園）
		〃	前田 浩輔 （認定こども園友愛幼稚園）	赤井 義明 （ひまわり幼稚園）	秋間 英司 （認定こども園黒磯幼稚園）

幼稚園等問題研究会

期日 平成二十八年三月八日（火）
会場 ニューみくら 三階中会議室
出席者

県こども政策課

支援班長 横田公宏氏
課長補佐 野口善幸氏
主 任 櫛淵圭一氏
副主幹 大根田敦氏

栃幼連

正副理事長・常任理事・地区理事



平野総務委員長
長総合司会のもと自己紹介から始まり、和やかな雰囲気の中で開かれた。会議の趣旨等が述べられ、以下の協議事項について活発に意見交換された。



①平成二十八年
度栃木県私立幼稚園等関係予算の概要等について、こども政策

課より説明があった。私学助成運営費補助金は従来比増額。新制度移行臨時助成金、第三子以降保育料免除事業、特別支援教育等、積

極的な議論があり幼児教育の重要性を改めて再確認した。

②栃幼連各委員会からの質疑事項

・緊急環境整備事業

・幼稚園と保育園で相互の情報提供で共有できる研修をめざす

・こども園に対する「事務の手引き」作成

・保育者確保の課題、子育て支援員について

その他、様々な質疑が出され、活発な意見交換がなされ、より質の高い教育と保育の確保をめざし、幼稚園等の諸問題にむけ前向きな考えを共有できた。

・保育者確保の課題、子育て支援員について

その他、様々な質疑が出され、活発な意見交換がなされ、より質の高い教育と保育の確保をめざし、幼稚園等の諸問題にむけ前向きな考えを共有できた。

・保育者確保の課題、子育て支援員について

その他、様々な質疑が出され、活発な意見交換がなされ、より質の高い教育と保育の確保をめざし、幼稚園等の諸問題にむけ前向きな考えを共有できた。

・保育者確保の課題、子育て支援員について

その他、様々な質疑が出され、活発な意見交換がなされ、より質の高い教育と保育の確保をめざし、幼稚園等の諸問題にむけ前向きな考えを共有できた。

教員養成機関・栃幼連懇談会

期日 平成二十八年六月六日（月）

午前十時三十分

会場 ニューみくら

出席養成校（順不同）

作新学院大学女子短期大学部、

白鷗大学、国学院大学栃木短期大学、

宇都宮短期大学、佐野短期大学、

宇都宮共和大学、国際介護福祉専門学校、

宇都宮ビジネス電子専門学校

主な懇談内容

県内の教員養成機関八校（十五名）と、

栃幼連（正副理事長、常任理事十名）との恒例の懇談会が

開催され、平野総務委員長の進行のもと情報交換が開催された。

自己紹介のあと、栃幼連加盟園に就職を希望する「就職説明会」について意見交換がされ、その中で、前年は群馬地区との日程が重なってしまった為に、一部の養成校の参加に影響がでたが今年は重ならない事を確認した。

また、保育現場の人手不足からくる、園側の強引な採用がされないよう、また学生に自由な就職活動を保証する事によって、早期退職者が減少する事を願い、就職説明会案内チラシと共に、「後悔のない就職活動をしていくために」と題した学生に向けた案内分を同封する事となった。

その主な内容は次の通り。

①採用有無の問い合わせや見学（自主実習）、就職希望の意思表示（志願書の提出）は、いつでも、何園でもかまわない。

②園の選考活動は平成二十八年七月二十四日以降とする。

③学生は、複数の園に応募し、複数の採用試験を受ける事が出来る。当然、複数の園から合格通知を受け取る場合も考えられるが、学生自身の意思で就職する園を決めること。

※就職の意思が無い（無くなった）場合には、すみやかに当該園に連絡するよう求める

④学生は、合格通知をもらった園に採用内定承諾書を提出した時点で正式内定となる。

（ただし、学生が承諾書を提出出来るのは、当たり前だが合格した園の中より、一園）

⑤校内試験や、実習等により採用試験に参加できない場合には、当該園に相談するよう求める。

その他、養成校より、自主実習を希望する学生に対し、履歴書の提出を求める保育機関が一部存在している事を確認したほか、養成校は学生に対し、株式会社系の保育機関でなく、法人が運営する保育教育機関への就職を学生にすすめている傾向があるように感じた。また、求人票の公開時期を統一した方が良いのでは？という意見などもあったが、引き続き懇談会を重ねることによって、徐々に、より良い就職活動、採用活動につながることを養成校、栃幼連ともに期待し、懇談会を終了した。



開催され、平野総務委員長の進行のもと情報交換が開催された。

自己紹介のあと、栃幼連加盟園に就職を希望する「就職説明会」について意見交換がされ、その中で、前年は群馬地区との日程が重なってしまった為に、一部の養成校の参加に影響がでたが今年は重ならない事を確認した。

また、保育現場の人手不足からくる、園側の強引な採用がされないよう、また学生に自由な就職活動を保証する事によって、早期退職者が減少する事を願い、就職説明会案内チラシと共に、「後悔のない就職活動をしていくために」と題した学生に向けた案内分を同封する事となった。

その主な内容は次の通り。

①採用有無の問い合わせや見学（自主実習）、就職希望の意思表示（志願書の提出）は、いつでも、何園でもかまわない。

②園の選考活動は平成二十八年七月二十四日以降とする。

③学生は、複数の園に応募し、複数の採用試験を受ける事が出来る。当然、複数の園から合格通知を受け取る場合も考えられるが、学生自身の意思で就職する園を決めること。

※就職の意思が無い（無くなった）場合には、すみやかに当該園に連絡するよう求める

④学生は、合格通知をもらった園に採用内定承諾書を提出した時点で正式内定となる。

（ただし、学生が承諾書を提出出来るのは、当たり前だが合格した園の中より、一園）

⑤校内試験や、実習等により採用試験に参加できない場合には、当該園に相談するよう求める。

その他、養成校より、自主実習を希望する学生に対し、履歴書の提出を求める保育機関が一部存在している事を確認したほか、養成校は学生に対し、株式会社系の保育機関でなく、法人が運営する保育教育機関への就職を学生にすすめている傾向があるように感じた。また、求人票の公開時期を統一した方が良いのでは？という意見などもあったが、引き続き懇談会を重ねることによって、徐々に、より良い就職活動、採用活動につながることを養成校、栃幼連ともに期待し、懇談会を終了した。



栃木県教育振興基本計画2020
 ―教育ビジョンとちぎ―



栃木県では、本県教育行政の基本方向を示す「栃木県教育振興基本計画2020―教育ビジョンとちぎ―」を策定し、今後五年間に取り組み一五の施策を示しました。その中の一つに「幼児教育の充実」が掲げられ、「幼児期の学校教育」の重要性が改めて明確になりました。

私たちは、義務教育及びその後の教育を支えているのは幼児期の教育であり、幼稚園やこども園等の先生方だと考えています。

幼児教育の振興に向け、センター職員一同、これまで以上に頑張りたいと思います。

今年度もどうぞよろしく願います。

※本冊子は、四月一九日に各園一部ずつ郵送しました。研修等に持参いただくこともありますので、大切に保管してください。

新規採用幼稚園教諭研修

四月五日、新規採用幼稚園教諭研修第一日を、総合教育センターで実施しました。期待と意欲に満ちあふれた新規採用教諭二七六名が、満開の桜並木に応援され、さわやかな研修のスタートを切りました。



開講式では、阿久澤真理こども政策課長、石嶋勇栃幼連理事長、森田浩子幼児教育センター長から挨拶があり、幼稚園教諭の仲間入りをした新採者に歓迎の温かいエールが送られました。

「保育者として」「幼児期の健康管理と安全管理」「幼児期の教育の基本」「保育の実践と省察」の講話があり、受講者からは「保育者としてだけではなく、社会人ということに忘れずに、子どもにとって良いモデルでありたい」「新採でも一生懸命子どもの様子をみていくことで、信頼を得ることができるようになった」「毎日、記録・省察を続け、子どもと共に成長し



ていきたい」など多くの学びと決意の声が寄せられました。

新規採用の先生方が、保育を楽しみながら、子どもとの関わりを深められるよう、職員一同支援させていただきます。

園内研修を応援します！

パンフレット「自分たちでできる研修ガイド」専門性の高い教職員集団を目指して」を作成し四月に各園に配布いたしました。



園内研修を計画するにあたり、準備から実施までの流れを分かりやすくまとめました。研修テーマ、手法、実施の悩み、それぞれから見ることで、是非、御活用ください。

また、幼児教育センターでは、教育・保育アドバイザー事業の一環で「園内研修サポートプログラム」を開始しました。センター職員が継続的に園内研修をサポートし、より効果的な実施を支援します。是非、御活用ください。

研修の申込みはこちらから

研修の申込みは、こちらの研修案内を御活用ください。

研修内容とFAX申込書が一体となり、そのまま送信できます。

すぐ手に取れるよう、赤いひもをつけました。一年間、保存して、活用してください。



研修に参加する際には、必ず「幼稚園教育要領解説（平成二十年十月）」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成二十七年二月）」を持参してください。今年度も、たくさんの先生方の参加をお待ちしております

センター職員紹介

昨年度と同じ八名です。改めて紹介します。



よろしくお願ひします
 センターマスコット
 ぴよちゃん

- 神長顧問
- 黒川指導主事
- 吉田幼児教育専門員
- 堀江副主幹（リーダー）
- 栗田幼児教育専門員
- 高木副主幹
- 前原指導主事
- 森田センター長



こども政策課だより

四月の定期異動により阿久澤こども政策課長のほか、子ども・子育て支援班では篠崎課長補佐、増子係長、三井主事が配属となりました。引き続き幼児教育や子育て支援の充実に努めて参りますので、本年度もよろしく願いたします。



- 山崎主任
- 高橋主任
- 斉藤係長
- 野中係長
- 篠崎課長補佐
- 横田子ども・子育て支援班長
- 阿久澤課長
- 佐瀬課長補佐 (総括)
- 尾崎主査
- 稲見主査
- 三井主事
- 大根田副主任
- 増子係長

学校基礎調査(教職員確認等)のヒアリング実施について

学校基礎調査(教職員確認等)のヒアリングを次の日程で実施します。私学助成を選択する幼稚園のみが対象となります。御多忙のところ誠に恐縮ですが、担当者の出席について、御協力をお願いします。

● 日程

七月一日(金)、四日(月)、五日(火)、十一日(月)

● 場所

栃木県庁本館六階大会議室一

その他詳細については、別途送付する通知文を参照してください。

各種届出書類について

園則や園地・園舎、理事・監事等の変更を行った場合は、速やかに各種届出を提出願います。

● 学校法人の平成二十七年年度決算書及び平成二十八年年度収支予算書の提出期限は、六月二十日です。

● 平成二十七年年度決算に伴う資産総額の変更登記は、五月三十一日までに行い、登記済届を六月三十日までにご提出ください。

平成二十八年七月～九月までの事業予定

7月1日	※10年経験者研修
7月5日	栃幼PTA総会
7月8日	保育セオリ講座
7月9日	O12歳児研修
7月9日	資質向上選抜養成講座Ⅱ
7月14日	※10年経験者研修
7月15日	※幼児期の特別支援教育研修
7月24日	就職説明会
7月28日	第63回県教研大会
7月29日	バス安全運転講習会
8月3日	新採研(集合研修)
8月17日	免許状更新講習
8月18日	資質向上選抜養成講座Ⅱ
8月23日	新採研(宿泊研修)
8月23日	(公財)幼児教育実践学会(東京)
8月25日	全日私幼関東地区教研大会(埼玉)
9月9日	※10年経験者研修
9月9日	保育テクニカル講座
9月13日	設置者・園長研修会
9月20日	※教育課程研究会(幼児教育)
	※は幼児教育センター事業

慶事

● 平成二十八年年度
県各種功労者表彰(県知事表彰)
認定こども園おおひらふじ幼稚園
理事長 町田 郁夫 先生

● 認定こども園つが幼稚園
新園舎 竣工式
平成二十八年五月三日

訃報

● 宇都宮市 認定すずめこども園
相談役 石嶋ミツ子 先生
平成二十八年四月七日 逝去

● 大田原市 ふたば幼稚園
前理事長 瀧田 登 先生
平成二十八年四月二十日 逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

新制度となり一年が経過しました。

準備はしてきましたが新制度がはじまった初年度はパニックの連続！市や県からの大量の文書。どんなメールがきて事務の職員は大変だったことでしょう。ときには県も市も同じような内容のものもありました。

県も市も一度手間にならないよう、ぜひ！ご検討下さい。

子ども達を預かる時間も大きくかわりました。そのために先生を多く採用し、シフトを作り、負担を少なくしながら教育・保育を充実させる工夫にも苦労しています。

先生の採用も大変だったと思います。平成二十七年年度は認定こども園に移行する園が多いので各園で一人でも多く採用したい。でも募集してもこない。資格をもった学生は、条件のいい県外に就職したり、資格を取得したのに子ども達と関わりたくない職を求めています。

待機児童をなくし、よりよい教育・保育をしていくための新制度ですが、落ち着くのは何年後になるのでしょうか。

これからさらに少子化が進んでいきます。幼稚園・認定こども園にとっても大変な時代になるでしょう。

そんな時こそ栃木県幼稚園連合会が中心となり、各園が協力しながら明るい未来を導けたらなと願います。(広報委員 斎藤 達成)